



九州工業大学 教員

榎田 修一（'02年度 修了）
[九州工業大学 情報工学部]

九工大の教育職員として、画像処理工学・パターン認識の分野で教育・研究を行っています。大学での講義はもちろん、研究室での教育・研究、そして学会での研究成果の発表や一般企業との共同研究と、幅広く活動しています。

私が研究に興味を持つようになったきっかけは、学生時代の自律型ロボットとの出会いでした。自律型ロボットとは、例えば自律的にサッカーをするロボットのように、センサを用いて周囲の情報を取得し、自分で状況を判断し、その時の最適な行動をアクチュエータで出力します。特に、カメラから得た画像から有用な情報を抽出することに興味を持ち画像処理工学を学び、画像情報から適切な出力への変換に機械学習やパターン認識を適用しました。現在の仕事でも学生時代に研究した技術を応用して、安全運転支援システム等の研究を続けています。

本学は、講義も充実していますが、実際のセンサやアクチュエータを用いてプログラムする演習設備など、環境が整っています。何よりも、情熱ある教員と学生が集まっているので、互いに刺激しながら研究を行うことができます。



ソフトウェア・エンジニア

高城 明彦（'06年度 修了）
[日本アイ・ビー・エム（株）]

Tivoliという運用管理ソフトウェアの国際化、品質に関わる仕事をしています。ドイツ語、フランス語、中国語など様々な言語環境で、新製品・新バージョンの検証を行います。常に新しいものに触れ、多くのコンピュータを扱うことができ、とても楽しい仕事です。しばしば海外のエンジニアとメールなどでコミュニケーションをとりますが、Thank you. → You're welcome. が成立したときは嬉しいものです。

私は、学生時代に素晴らしい先生方、先輩同輩に恵まれ、問題への対処の仕方やものの考え方、大学生活の楽しみ方を学びました。また、新カリキュラムのもと自由にのびのびと好きなことに打ち込むという経験をしました。それらが今仕事に役立っていると実感しています。

「ナマのデータを見ていると、データから語りかけてくるのだ」これは恩師の言葉です。粘り強くデータに向き合うことを教えて頂きました。新しいものを扱うことは分からないことの連続だけど、問題が解決したときの喜びは大きい。実にやりがいのある仕事です。



公立高校教員

藤岡 宏子（'06年度 修了）
[公立高等学校]

教員として公立高校に勤務し、数学と情報を指導しています。また、進路指導課で主に進路を指導し、勤務校ホームページも担当しています。

数学に対して苦手意識の強い生徒も、課題を達成したときには必ず笑顔を見せてくれます。教員は、その笑顔を間近で見ることができ、また、生徒の成長を応援し、自らも共に成長できる、素晴らしい職業だと感じています。

大学で学んだコンピュータの知識は、授業の指導や勤務校のホームページの作成で非常に役に立っています。また、大学時代の小学校特別支援学級でのボランティアにおいて、児童と接する難しさや喜びを味わったことは、現在の仕事に通じる貴重な体験だったと思います。

現在、教員の採用数が少ない状況が続いています。教員は想像していた以上に多忙でしたが、常勤講師も生徒の前に立てば先生ですし、常勤講師の経験は必ず自らの糧になると信じて日々の仕事にも全力で臨みました。その結果、正規採用となりました。教員を目指す方は、「必ず教員になる」という信念を持って頑張ってください。



SE （システム・エンジニア）

中村 久美子（'00年度 修了）
[日立公共システムエンジニアリング（株）]

生物学と情報処理技術、両方を学びたくて情報工学部に入りました。現在はその二つの分野の間を取り持つような仕事をしています。それは、「遺伝子情報等を表示するViewer」すなわち、「遺伝子の配列や、関連する様々な情報を直感的に理解しやすく表示する視覚化システム」を開発する仕事です。遺伝子情報処理はヒトゲノム計画を機に盛んになりましたが、まだ、分子のならばが電子化された程度です。本格的な解読はこれからです。その遺伝子情報データベースの分かりにくさや使いづらさを解消し、専門家の研究を手助けできるようなViewerを実現するため、私達は日々開発に取り組んでいます。

このシステムを開発するためには、データの意味を理解するだけの生物学の知識が必要です。その知識を活かしつつViewerを形にしていくところに、仕事の面白さを感じています。もちろん困難もありますが、周囲の人とのコミュニケーションと根気で乗り切っています。これもまた、学生時代に学んだ大切なことだと思っています。